

1930年造 木造校舎のぬくもり

県有形文化財に指定されている旧県立安房南高校第1校舎（館山市北条）が10月29、30両日に一般公開された。2008年に県立安房南に統合後、NPO法人「安房文化遺産フォーラム」などが保存活動を続け、年1回の見学会を開いてきた。台風15号被害と新型コロナウイルス感染拡大の影響で19年以降は中止が続いてきたが、今年は4年ぶりに公開することができた。

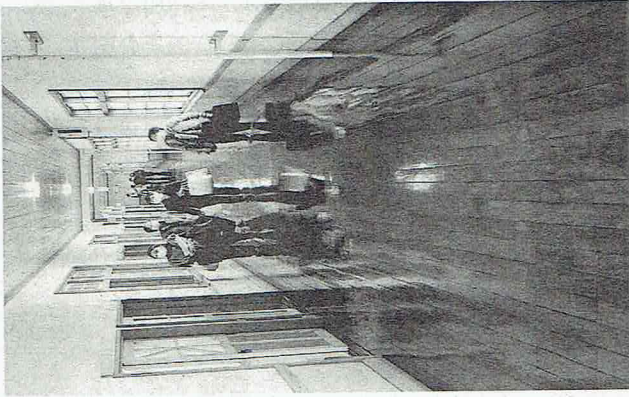
現存する第1校舎は1930年に建ち上げられた。木造2階建てで延べ1116平方メートル。薄いピンクの建物で左右対称に伸びる外観は、羽を広げた白鳥に例えられる。日本の伝統的木造建築と洋風建築が融合した和洋折衷の設計で、当時としては最新の耐震技術が施されているという。

各教室には歴代の制服や

落書きが残る机や椅子などが展示され、見学者たちは

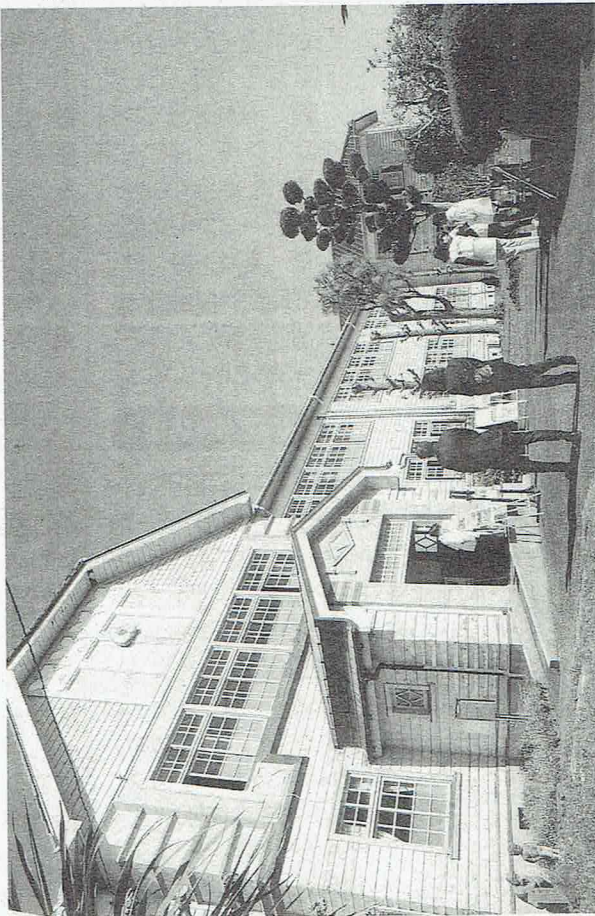
「出してほしい」と話していた。【吾崎信道】

旧県立安房南高校第1校舎公開 館山



校舎2階の廊下。ぬか雑巾で磨いていた時代もあったという＝いずれも館山市で

熱心に見入っていた。70年に安房南高を卒業したという館山市の加瀬久子さん（71）は「在学中は意識しなかったが、年齢を重ねるうち、素晴らしい環境で青春を過ごしたと気づいた。卒業生ではなくても、木造校舎のぬくもりに触れ、母校を大切に思う気持ちを思



4年ぶりに一般公開された旧安房南高校第1校舎